

授業づくりのポイント シリーズ④

問題解決的な展開の授業で深い学びをつくる～

各教科等の学習においては、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を充実する必要があります。


＜「中央教育審議会 答申」から＞

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けることが求められています。

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。


特に、「深い学び」については、子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。と述べられています。教員はこの中で、問題解決的な展開を効率よく丁寧に進めるために、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められています。

＜「新大分スタンダード」から＞

 **新大分スタンダード** 新大分スタンダードで
アクティブ・ラーニング!

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

- 1 1時間完結型**
「**主体的な学び**」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「**振り返り**」
*追究すべき事柄を明確にする「**課題**」、追究した結果を明確にする「**まとめ**」
- 2 板書の構造化**
*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書
- 3 習熟の程度に応じた指導**
*「**具体的な評価規準**」に基づく確かな見取り
*「**努力を要する状況**」の児童生徒に対する手立ての工夫
- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開**
「**主体的・対話的で深い学び**」を創造する学習展開
各教科の**見方・考え方を働かせて**展開する「**課題設定**⇒**情報収集**⇒**整理分析**⇒**まとめ**・**発信**・**交流**⇒**振り返り**・**評価**」等の学習過程の中で行われる
*問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
*様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

 安心して学べる「学びに向かう学習集団」

本県が目指す授業改善のポイント2

4 問題解決的な展開の授業

- ① 学ぶ意欲を引き出す**課題設定**
(考えてみたい・やってみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための**情報収集**
(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の**整理分析**(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことの**まとめ・発信・交流**
- ⑤ 学習の成果を**実感させる単元の振り返り及び評価**

「新大分スタンダード」においては、子どもの思いや願いの実現に向けたプロセスにすることが課題解決に向けたポイントになるとされています。

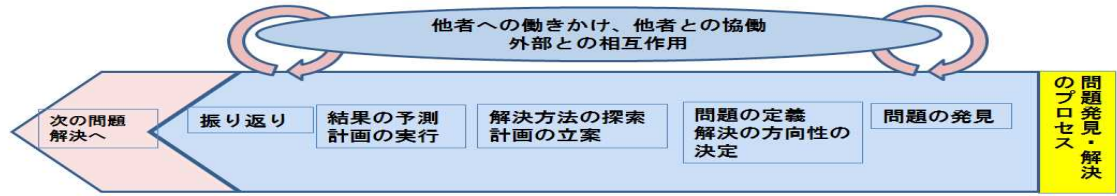
教科等や内容によって単元や題材レベルで展開されたり、1単位時間レベルで展開されたりします。また、展開も教科等により若干違います。オーソドックスな展開として例に挙げています。児童生徒が疑問や関心から課題をもち、課題解決のために情報の収集、整理分析等を行い、問題の解決に取り組み、学習の成果を実感できる振り返りまでを行う学習展開が必要です。

＜「学習指導要領解説総則編」から＞

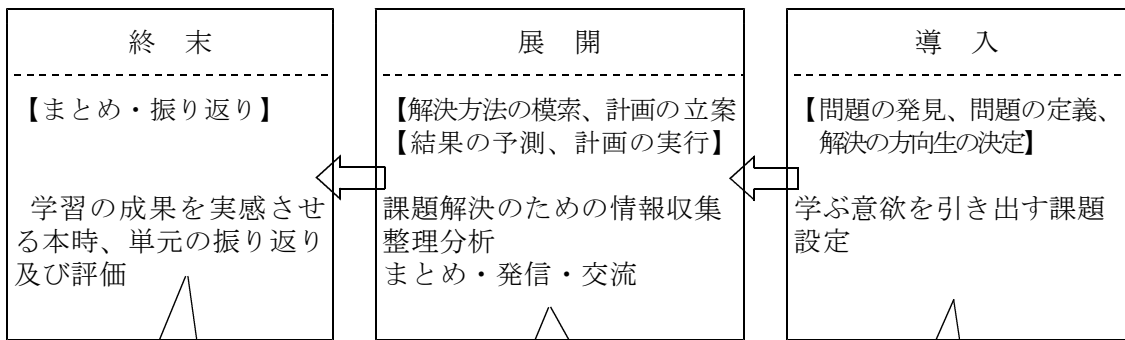
「小（中）学校学習指導要領解説総則編56P（56P）」では、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習は、主体的に学習に取り組む能力を身に付けさせる

とともに、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる上で有効である」とされています。
 各教科において身に付けさせるべき知識・技能も体験的な学習やそれらを活用した問題解決的な学習を通すことによって、学習や生活に生かされるようになっていきます。

○「中央教育審議会答申 補足資料」に、問題発見・解決のプロセスが示されています。
 ※必ずしも一方通行の流れでなく、後戻りしたり繰り返したりします。



○大分県教育委員会「魅力ある授業の創造（H6年）」「新大分スタンダード」等で示した問題解決的な学習過程です。単元及び1単位時間の両方で構成する必要があります。



○例えば、国語の1時間の授業に当てはめると、主眼に即して次のような流れになります。

単元名(題材) 「子ども句会」を聞いて、作った俳句をおうちのの人に聞いてもらおう。 〔「俳句・短歌を作ろう」〕	主眼 自分が作った俳句を、情景をとらえた類似の言葉や句のリズムを考えながら見直すことによって、より気持ちが伝わる俳句にすることができる。			
評価規準 【観点】 俳句の中の情景をとらえ、語感・言葉の使い方を考えて、よりよい表現を探そうとしている。(伝達力(力))				
4時間目 / 5時間目				
振り返り 今度の句会に向けて、リズムのよさを考えながら、情景がより伝わるようにしている。	まとめ 情景が、かみかみするような言葉を選んだり、言葉を入れかえてリズムをよくしたりすると、より気持ちが伝わる俳句になる。			
交流(全体) 一句選んでその情景と見直したところを発表する。	交流(別) ① それぞれの句とその情景を紙で発表する。 ② たずねてみたいことを聞く。 ③ よりよい表現について考える。 ④ 交流をもとに自分の句を見直す。 ⑤ 見直した句を伝え合う。			
	見直し 上の気持ちが伝わる俳句にするための視点。 ○ 俳句の中に情景がしっかりうかんでいるか。 ○ 似たような意味で別のすてきな言葉はないか。 ○ リズムよくするために言葉を入れかえてはどうか。			
	めあて 作った俳句を友だちと練習し合い、より情景や気持ちが伝わる表現を考えよう。			
	ゴール 子ども句会を聞き、作った俳句をおうちのの人に聞いてもらう。			
振り返り (5分)	まとめ (3分)	交流(リハーサル) (29分)	めあて (6分)	復習 (2分)

グループ学習：より情景や気持ちが伝わる俳句にするために、互いの意見を聞き合う。

○各教科の特質を生かし、思考力等が育つ過程にしていくことが大切です。

各教科等の思考力の育つプロセス

- 国語、外国語… 様々な資料から必要な情報を整理して自分の考えをまとめる過程
- 社会… 社会的な事象から見いだした課題や多様な考え方を多面的・多角的に考察して自分の考えをまとめる過程
- 数学… 事象を数学的に捉えて問題を設定し、解決の構想を立てて考察していく過程
- 理科… 自然の事象を目的意識を持って観察・実験し、科学的に探究する過程
- 音楽、美術… 自分の意図や発想に基づき表現を工夫していく過程 ※答申(12/21)P. 32から